

(工作物(擁壁)対象)

工事施工状況報告書

(建築基準法第12条第5項、大和市建築基準法施行細則第19条)

(第一面)

年 月 日

建築主事 あて

下記に関わる工事の施工結果について次のとおり報告します。

なお、確認申請図書と照合した結果、変更は有りません。
変更が有るので、別添のとおり報告します。

報告者	<input type="checkbox"/> 工事監理者	住所 資格 () 級建築士 () 登録 () 号 事務所名 () 級建築士事務所 () 知事登録 () 号 氏名 (印)
	<input type="checkbox"/> 工事施工者	住所 資格 建設業の許可 大臣・知事 () 号 会社名 氏名 (印)
築造主	住 所 氏 名	
工事概要	工事名称 確認済証 年 月 日交付 第 号 築造場所 大和市 擁壁の構造 <input type="checkbox"/> RC造 <input type="checkbox"/> 練積(間知石)造 <input type="checkbox"/> CP型枠ブロック造 <input type="checkbox"/> その他 () 擁壁の高さ () m <土圧を受ける部分の最高高さを記入して下さい>	

(注意事項)

- 完了検査申請時に提出して下さい。又、確認申請図書と照合した結果、変更が有る場合は報告して下さい。
- 下記の部分の工事写真等及び国土交通大臣による認定書がある場合はその写しを添付して下さい。
 - ・底版、立上り壁部分の配筋(鉄筋径、間隔がスケール等で確認できるもの)
 - ・底版、立上り壁、透水層、裏込め砕石等(厚みがスケール等で確認できるもの)
 - ・建築主事が必要と認めるもの ()
- 該当する部分の□にチェックをして下さい。
- 施工状況等について第二面(裏面)に記載して下さい。

(第二面)

No	確認項目	仕様・施工状況	結果	備考			
1	基礎工事	地盤の許容応力度 () KN/m ² 地盤の許容応力度の確認方法 ()	適・不適・該当無	令 38 告 1113			
		くい基礎の場合 ・工法 () ・代表されるくいの全長 () m ・代表されるくい径 () mm ・くい位置偏心(芯ずれ)の最大寸法 () mm ・支持層の確認方法 ()	適・不適・該当無				
2	鉄筋工事	底版、立ち上がり壁の主筋の品質 <input type="checkbox"/> JISG3112 に定める鉄筋コンクリート用棒鋼 <input type="checkbox"/> その他 ()	適・不適・該当無	法 37 告 1446			
		底版の主筋 ・種類 径 () mm <input type="checkbox"/> 異形棒鋼 <input type="checkbox"/> 丸鋼 ・間隔 () mm	適・不適・該当無	—			
		立ち上がり壁の縦筋 ・種類 径 () mm <input type="checkbox"/> 異形棒鋼 <input type="checkbox"/> 丸鋼 ・間隔 () mm 立ち上がり壁の横筋 ・種類 径 () mm <input type="checkbox"/> 異形棒鋼 <input type="checkbox"/> 丸鋼 ・間隔 () mm	適・不適・該当無	—			
		隅部補強 ・種類 径 () mm <input type="checkbox"/> 異形棒鋼 <input type="checkbox"/> 丸鋼 ・間隔 () mm	適・不適・該当無				
3	コンクリート 工事	設計基準強度 () N/mm ² 呼び強度 () N/mm ² スランプ値 () cm	適・不適・該当無	法 37 告 1446			
		かぶり 厚さの 最小値 (cm)	部位	土に接する 部分	土に接しない 部分	適・不適・該当無	令 79
		底版の配置、寸法、及び、立ち上がり部分の配置、寸法				適・不適・該当無	—
4	積石工事	下端部分のブロックの厚さ () mm ブロックの勾配 () 度	適・不適・該当無	告 1449 宅令 8			
5	その他	透水層の材料 () 裏込め材の厚み () mm	適・不適・該当無	令 142 宅令 8 宅令 10			
		水抜き穴の設置状況(配置、寸法、勾配等)	適・不適・該当無				
		背面の埋戻し土の土質 ()	適・不適・該当無				

(注意事項)

1. 該当する部分の□にチェックをして下さい。
2. 仕様・施工状況欄の()の部分を入力して下さい。又、施工結果について結果欄の「適・不適・該当無」の該当するものに○印を付けて下さい。不適合の場合は是正措置を報告して下さい。